



遠藤誠 議員 (WAKABA)

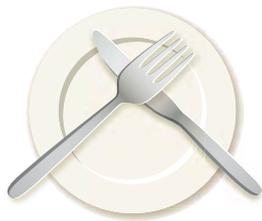
## 食べ物しか体を作れないことの食育を

答弁…健康づくりのための食育を推進する

**問** 食のレベル①生命を維持する。②健全な体を保つ。③飽食、偏食、食べ過ぎ。

経済の拡張は、豊かさを誤解して消費をある。お取り寄せ文化、ふるさと納税の食の部分、マスコミに踊らされ、通販に狂わされ、食べまくる人生から解放されるための食育を。

**答** 現代の食の課題は、飽食、偏食であり、それにより、健康づくりの基本は望ましい食生活にあるという意識が希薄になってきている点もある。こうした状況を認識、把握したうえで、健康づくりのための食育を推進していく。



▲録画配信  
(2月25日一般質問)

**防災** 課題は防災知識なのか  
自治意識なのか

答弁…地域の支援に努め防災意識の向上を図る

**問** 10年も自主防災組織に関わっていると、住民の防災意識の低さに困惑する。自助・共助・公助のうち、自助と共助はふだんの自治活動の延長である。すぐ思いつくよい手段はないが、市民の防災意識の高揚について、もう一度自治の観点から政策を見直すべきでは。

**答** 災害対応や避難所の円滑な運営には、自治の精神が重要である。このため、自主防災組織の効果的な取組など防災関連情報の共有と併せ、地域における防災活動の体制づくりを支援することで、防災力、防災意識の向上と地域コミュニティとの連携を図っていく。



石渡征浩 議員 (TSUNAGU)

## 地域公共交通に対する考え方は

答弁…最適な交通ネットワークを構築していく

**問** ①地域公共交通は、電気・ガス・水道・通信と同様、私たちの生活に欠かせない社会インフラであるが、その認識を持っているか。②費用に見合った効果が得られないと改善がなかなか進まないが、費用対効果の概念で判断することが適切と考えているか。

**答** ①市では地域公共交通を単なる移動手段ではなく、「社会インフラ」として位置付けている。②財政上の制約はあるが、判断基準として、費用対効果を第一義にすべきでないとの考えも必要である。地域特性に応じた最適な交通ネットワークを構築していく。



▲録画配信  
(2月25日一般質問)

**施設** 公共施設の再編とは

答弁…将来を見据え、複合・集約化を進める

**問** 公共施設再編の基本方針では、2060年までに、学校教育施設を含めた公共施設全体で、現状の床面積の20%を削減するとのことだが、その根拠は何か。また、主な公共施設の方向性についても、併せて伺う。

**答** 将来の支出や財源の見込み等から削減目標を算出した。市役所周辺の施設は、災害対応の拠点になるため、大規模改修等を行いながら長寿命化を図っていく。それ以外の施設は、必要性等を検討し、更新する際には複合・集約化することを念頭に再編を進めていく。